

ふうしゃだより

WINDMILL LETTER

2026.
9月号

皆様こんにちは。日本風力エネルギー(株)です。

2026年、気候変動の影響により、毎年のように夏の最高気温が更新される状況を受け、“酷暑日”(最高気温が40℃を超える日)が新設されました。鳥取市では酷暑日はなかったものの、8月7日に観測史上最高気温である39.6℃を記録したことは大きなニュースになりました。

今回のふうしゃだよりでは、地球温暖化による熱中症などの健康への影響、さらには農作物への高温障害、また地域においては人口減少や少子高齢化が進む中、持続可能な地域づくりに対する課題に対し、“地域資源”を活用する再生可能エネルギーの活用はどのような対応が可能なのかを、学び、考え、議論する場として神戸地区で設立された「神戸地区再生可能エネルギー協議会」の設立趣旨を会長よりご紹介頂きます。

本ふうしゃだよりをご一読頂きますと幸いです。引き続き宜しくお願いいたします。



注目コンテンツ

- ・「神戸地区再生可能エネルギー協議会」の設立趣旨のご紹介
- ・よく頂戴するご質問への弊社見解のご紹介「山の尾根筋に風車や道路を建設することについて」
- ・弊社の株主構成のご紹介



弊社が計画しております「(仮称)鳥取風力発電事業」は計画段階であり、風車の位置などは地域住民や専門家のご意見を頂きながら、進めてまいります。説明会や話し合いの機会を頂戴できますと幸いです。環境影響評価方法書への知事意見として、「住民等一人一人にきちんと情報が届くように丁寧に説明をおこなうこと」が求められました。「ふうしゃだより」が情報提供の一端を担えるよう尽力してまいります。



神戸地区に再生可能エネルギー協議会が設立されました。

今回は、栗本会長に設立の主旨につきご寄稿いただきました。

神戸地区再生可能エネルギー協議会 設立の主旨

地球温暖化により気温は近年ますます上昇しております。猛暑日は頻繁に発生し、酷暑日が新たに追加されるほどとなり、熱中症や農作物の高温障害が心配されます。温暖化への対応は多くの皆様が重要と考えられています。また、神戸地区に於いては人口減少や少子高齢化が進行しており、将来にわたり持続可能な地域づくりをどのように進めていくかが問われています。

神戸地区再生可能エネルギー協議会はこうした課題に対し、地域資源を利用した再生可能エネルギーの活用がどのように対応可能であるのかを、地域の皆様と共に学び、考え、議論する場として今年4月に設立しました。

現在、神戸地区では風力発電事業の計画が進められていますが、本協議会は特定の事業を推進する立場でも反対する立場でもなく、まずは事業内容や地域への影響について十分な説明を受け、環境調査や各種検討の結果を冷静に見極めながら、地域にとって何が望ましいのかを住民自らが考え、判断していくことが重要であると考えています。

本協議会は、再生可能エネルギーを通じた地域の将来像や、人口減少時代における持続可能な地域づくりについて幅広く検討し、地域住民相互の理解と対話を深めながら、神戸地区のより良い未来につながる取り組みを進めてまいりたいと考えています。

地域資源の有効活用による活力ある地域を将来の世代に引き継いでゆきたいと考えています。

令和8年9月吉日

神戸地区再生可能エネルギー協議会

会長 栗本 保夫

山の尾根筋に風車や道路を建設することについて



よくある質問



尾根筋に風車や道路を建設すると大規模土砂災害が発生する。地下水・井戸水が枯渇し、最終的に海へ土砂が流入し、漁場・生態系が損なわれる。



日本では、1990年代後半から陸上風力発電所の建設が進み、2025年時点で約2,800基の陸上風車が建設されています。

そのうちの過半を超える多くが、山の尾根筋に建設されています。

風車の数が多いため、局所的な斜面トラブルは「ゼロではありません」。

AI検索によれば、過去に斜面トラブルがあった事例として、

①三重県青山 ②和歌山県日高 ③青森県六ヶ所村 ④鹿児島県肝属 ⑤北海道日高の5か所が表示されます。

現時点で確認できる範囲では、**風車そのものを起因として、広範囲に被害が及ぶような大規模な土砂災害が発生したという事例は、国や自治体等の公的な資料では報告されていません。**

その理由は、以下の通りと考えていますが、引き続き、風力発電所周辺の土砂災害や斜面トラブル情報の把握と検証に努めてまいります。

- ✓ 局所的な**トラブルが発生した**段階で、**放置せず改修**している。
- ✓ 排水・保安施設や、のり面の**日常的な維持管理**がなされている。
- ✓ そもそも、**風力発電所は「山全体のうち、手を加えるのは100分の2程度」**である。
- ✓ **尾根に立地**することで、**地下水集中域を避けている**。



ヴィーナ・エナジーの株主構成について

・ヴィーナ・エナジーは、ヴィーナ・エナジー・ジャパン株式会社 (VEJ)、日本再生可能エネルギー株式会社 (NRE)、日本風力エネルギー株式会社 (NWE)、ヴィーナ・エナジー洋上風力株式会社 (VEOW)、NREオペレーションズ株式会社 (NREO)、ヴィーナ・エナジー・エンジニアリング (VEE) の親会社

・ヴィーナ・エナジーは、シンガポール本社でアジア太平洋地域の10の国と地域で事業を行っており、その中でも日本は最重要地域

・ヴィーナ・エナジーの主要株主は、インフラストラクチャー専門の投資会社であるGlobal Infrastructure Partners (「GIP」)。GIPの拠点はニューヨーク・ロンドン・ムンバイ・スタンフォード・シドニー

・GIPの株主は世界最大の資産運用会社BlackRock

BlackRock

世界最大の資産運用会社
本社:アメリカ、ニューヨーク



50か国以上で事業を展開
本社:アメリカ、ニューヨーク



10か国で事業を展開
本社:シンガポール



日本法人

💡 私たちは「説明しておわり」にはしません

この「ふうしゃだより」は、私たちの考えを一方向的に伝えるためのものではありません。



分かりにくかった点



納得できない点



もっと知りたいこと

ご意見やご質問があれば、ぜひお聞かせください。

いただいたご意見やご質問に回答することはもちろんのこと、“記録”し、“必要に応じて専門家や行政とも共有”し、“今後の説明や対応に反映”します。

〈ご意見・ご質問のお問い合わせ先〉
表紙の下帯をご参照ください。



最後に

風力発電は、「地球温暖化対策」「エネルギーの安定供給」という大きな目的のもとに進められています。

同時に、地域の安全と安心が守られなければ、意味はありません。

私たちは、この土地で長く続く事業として、地域の皆さまと向き合い続けることをお約束します。

最後までお読みいただきありがとうございました。



地球温暖化
対策



エネルギーの
安定供給